

おもしろ防災紙芝居のはじまりはじまり〜

みんな聞いて聞いて〜。どこからかおもしろい音楽が聞こえてくる
よ〜？

♪スカンクスカンクプップー♪ x 2回

(ページをめくります)

1ページ

スカンク「プーブフオー。やあ、みんな。僕の名前はスカンク！見た目はリスさんみたいな動物でお歌が大好きなんだ。でね、実は僕——おおきな声じゃ言えないけど、よくオナラをプーつとするんだ。オナラしたらちよつとくさいけど、よろしくよろしくー！そうそう、今日は森のフクロウさんと大事なお話があるんだ。じゃ、森にいつてきまーす。プップップー」

そのころ、一人の男の子がおうちの鏡の前でかっこつけていました。

2 ページ

ぼうさいおうじ「シャキーン！やあみんな、ぼくの名前は、ぼうさいおうじ！みんな、ぼうさいって知ってる？知っている子いるかな？ぼうさいっていうのはね、地震とか火事がきたときのために、準備しておくことで、とっても大事なことなんだ。ぼうさいのことなら、ぼうさいおうじのこの僕になんでもきいてくれ！シャキーン」

3ページ

そんなふうにかっこつけていたぼうさいおうじのところへ、スカンク君が走ってやってきました。

スカンク「ぼうさいおうじー、ヤバイよヤバイよヤバイよー」

おやおや、スカンク君、どうやら慌てているようです。

ぼうさいおうじ「どうしたんだい、スカンク君」

スカンク「さつきね、森のフクロウさんに聞いたんだけど、大変なことがおきるんだよ。なんと、地震っていうのがやってきて、地面が揺れて、大きなものが倒れてくるんだって！大変だ大変だー、僕もう逃げるー！」

ぼうさいおうじは走って逃げようとするスカンク君にこういいました。

4ページ

ぼうさいおうじ「おいちよつと、待てよ！」*キムタク風に

しかし、スカンク君は急に走ってしまったので、ドシーンと壁にぶつかってしまいました。

スカンク「いてててー」

ぼ「大丈夫？スカンク君。慌ててはしっちゃいけないよ。」そういつてスカンク君のあたまをなでなでしました。

スカンク「ごめんごめん、ついついあわててしまったよ」

5ページ

ぼうさいおうじはスカンク君にいいました。

ぼ「地震が来たときに、とっておきの魔法の言葉があるんだ。知ってるかい？」

スカンク「魔法の言葉？あ、ひよつとして、あれでしょ。スカンクスカンクプッププー でしょ？」

ぼ「ちがうちがう。地震が来たときの魔法の言葉はね、お・か・し・も・ち・つていうんだよ。」

スカンク「おかしもち？なにそれ、美味しそうな名前だね。食べられるの？食べたい食べたいー」

ぼ「ちがうちがう、おかしもちは、おかしじゃないんだ。」

6 ページ

ぼ「おかしもちの「お」は、押さない、のおなんだ」

地震や火事がきても、慌てて逃げようとして人を押したりしてはいけないよ。

7ページ

ぼ「おかしもちの「か」は、かけないのか、だよ。つまり、走らな
いってことだね。

スカンク「ふむふむ」

8ページ

ぼ「おかしもちの」「し」は、しゃべらない、の」「し」だよ。シーの

「し」でもあるんだよ。

スカンク「なるほどね、シーのしだね。」

ぼ「そうそう、わかってきたね。じゃあ、おかしもちの「も」はな

んだかわかる？みんなもなんだかわかるかな？」

9
ページ

ぼ「正解は・・・もどらない、ものなんだ。」

スカンク「むず！！それむず！難しすぎだよ」

ぼ「ごめんごめん、ちよっと難しかったね。」

ぼ「ではさいご、おかしもちの「ち」は、ちかよらないのちだよ。」

スカンク「ちかよらない？って何にちかよらないの？」

ぼ「窓ガラスや、大きなダンスとかには近づくと、割れたりたおれて来たりするから危ないからはなれてね」

スカンク「わかったよ！おかしもち、スゴイなあ。僕、おかしもち

の歌思いついたよ。聞いて聞いてー」

11ページ

スカンク「おかしもち、おかしもち、おかしじゃないけど、おかしもち」

ぼ「ハハハ、いい歌だね。おかしもち、これならすぐ覚えられそうだね」

二人が楽しそうに歌をうたっていると、遠くから、ドシン、ドシンと大きな音が聞こえてきました。地面も揺れています。

12ページ

ドシーンドシーン

*はげしく紙芝居をゆらす。ドシーンと効果音を出す。

スカンク「た、た、大変。ぼうさいおうじ、これ本当に地震がきちやったんじやない？」

ぼ「そうだね、まず、おちついて。家にいて地震が来た場合は、テーブルの下でダンゴムシだよ」

そして二人はテーブルの下に隠れて、体を丸めてダンゴムシのようになりました。

プーブリブリプー！

おやおや、緊張してしまったスカンク君が、テーブルの下で、またオナラをしまいました。

ぼ「くさっー、狭いところでオナラしないでくれよ。」

スカンク「ごめんごめん。」

ぼ「ほら、スカンク君、あそこ、本棚もゆれてる。けど、よく見て。

天井と本棚をささえている棒があるから、本棚が倒れないですんでいるんだよ」

スカンク「あ、本当だ。あれも防災なんだね」

二人が話していると、揺れがおさまってきました。するとスカンク

君は、「ヤッター、揺れが少なくなった、これなら逃げられるぞー」

とってテーブルから飛び出してしまいました。

すると、、

14ページ

ゴチーン！いたたたたー！

本棚から落ちてきた本がゴチーンとスカンク君の頭にぶつかってしまいました。

ぼ「大丈夫？スカンク君。揺れが収まるまでテーブルから出ちゃダメだよ。」

スカンク「ホエホエー。なんだか頭がフラフラするー。」

ぼ「本当に大丈夫かい？おかしもち、覚えている？もう一回いってみて」

するとスカンク君は答えました。

15ページ

スカンク「おかしもちのおはオナラのおだろ。でおかしもちのかはカレーライスのか。おかしもちのしは、えーとえーと、しらない！の「し」おかしもちのものはモンスターのもの。で、おかしもちのちは、、、

うんちのち！」 *すべて早口で、うんちは強調して大きな声で

ぼ「ぜんぜん違うよースカンク君！」と二人で話していると、またまたドシーンドシーンと大きな音とともに、地面が揺れ出ししました。

16ページ

ぼ「また地震がきたかもしれない！」

いよいよ音は大きくなり、地面も大きく揺れ出しました。

*ドシーンドシーンとってページをゆらす

わー大変だ。地震だ、地震だー！とその時、現れたのは、

17ページ

パオーン！

なんと、おおきなおおきなゾウさんでした。

ゾウ「おはよー。ぼうさいおうじとスカンク君。一緒にあそぶぞー
う。」

なーんだ、ゾウさんだったんだ、地震じゃなかったんだね。

安心したスカンク君は、最後に大きな大きなくっさーいオナラを、

*スっとページをめくる

プーブーブリブプリプリーブオオーおしりブリブプリププーブツ
ーブブリブプリブプリブフオオオおしりもちブフオブーブーツツ
ツブーブツブーブー！ としました。

するとゾウさんは長いお鼻をヒクヒクしてこういいました。

ゾウさん「おいおい、僕の長いお鼻の前で、おならするのやめてくれよ。とつてもくさかったぞう！」

スカンク「ごめんごめん、つい安心しちゃってさ。強烈なのをしてしまったよ。みんな、おかしもち、忘れないでね。プッププー」

*ページをめくって

おしまい